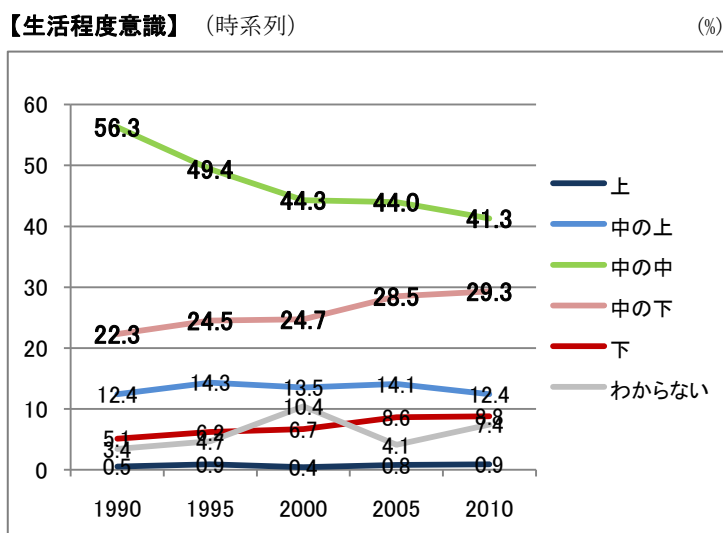


《主なトピックスとデータ》

1. 生活や家計の満足度が低下、増加する「中の下」（ローミドル）意識

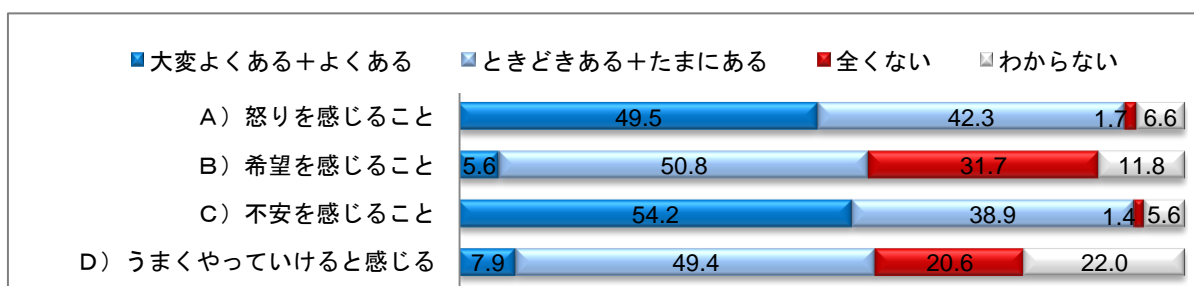
- 生活満足度、家計満足度がともにこの5年で7ポイント低下
- 生活程度意識をみても、「中の中」意識は縮小し続け、「中の下」（ローミドル）意識が拡大



2. 背景には「経済競争力」「雇用・労働状況」の悪化や、「国際政治力」の低下などの社会不安

- 日本が悪い方向に向かっていると思うこととして「経済競争力」が 47%、「雇用・労働状況」が 67%と増加。東アジア情勢の悪化を受け「国際政治力」も 54%
- 現在の日本に「希望を感じる」は 56%、「不安を感じる」が 93%と、不安が多数を占める

【現在の日本の置かれた状況】（2010年） (%)



3. 今後 10 年間の国家目標として「高い経済成長の維持」を期待

- 今後 10 年間の国家目標として、「高い経済成長を維持すること」が 56%と、調査開始以来、初めて過半数を占めた

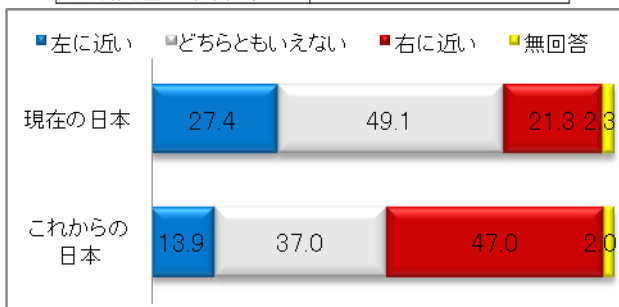
4. 国の役割は「国民の安心な暮らし」の実現

めざすべきは、「財政規律」を重んじ、「福祉などの行政サービスが充実した社会」

- ・ 「国民が安心して暮らせるよう国は責任を持つべき」が76%と、調査開始以来最大値
- ・ 「めざすべきこれからの日本」について、「公共投資や公共事業を盛んに行う社会」よりも「財政規律を重んじ、国や地方自治体の借金を大きくしない社会」を支持する人が多く、「福祉などの行政サービスが充実した社会」を支持する人が約半数を占める。

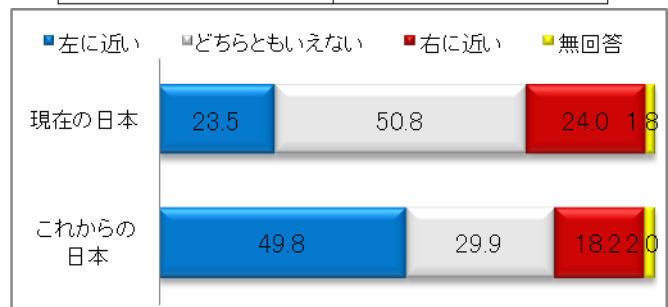
【めざすべきこれからの日本①】（2010年）

経済成長を重んじ、公共投資や公共事業を盛んに行う社会
財政規律を重んじ、国や地方自治体の借金を大きくしない社会 (%)



【めざすべきこれからの日本②】（2010年）

税負担は大きいですが、福祉などの行政サービスが充実した社会
福祉などの行政サービスを必要最小限に絞り、税負担の少ない社会 (%)



5. 「科学技術水準」「文化・芸術」については、日本がよい方向に向かっていると評価

- ・ 日本で良い方向に向かっていると思うことは、「科学技術水準」と「文化・芸術」で、どちらも時系列でみると回答が増加している

6. 環境や安全に配慮し、創造性を活かし、人と助け合う“共生個人主義”志向は健在、同時に、無駄な出費を避け、必要なことにだけお金をかける堅実消費志向も

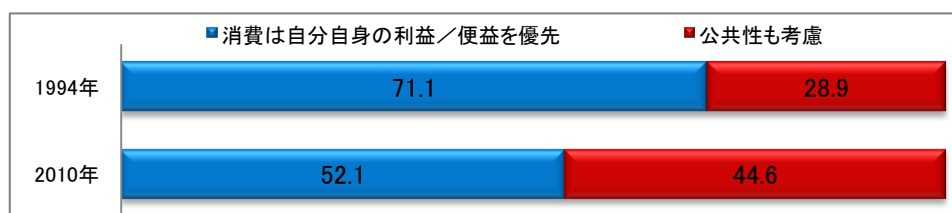
- ・ どのようなライフスタイルを重視するか時系列でたずねた結果、もっとも多かったのは「環境に気を使うこと、自然へ配慮する」で、「周囲の人を助けて、幸せにする」「安全な環境に住むこと、危険なことはすべて避ける」、「新しいアイデアを考えつき、創造的であること」が続き、前回結果とほとんど変化はない。また、今回新しく追加設問した「無駄な出費を避け、必要なことにだけお金をかける」は4番目に多い回答となった

7. 消費は自分自身の利益/便益だけでなく、「公共性も考慮すべき」と考える生活者が増加

- ・ 「消費は自分自身の利益/便益を優先するか」、「公共性も考慮すべきか」という二択の設問について、「公共性も考慮すべき」と考える人が増加し、45%を占めた

【消費に対する考え方】（時系列）

(%)



* 1994年参考数値は、電通総研「第二回消費動向調査」より